

麻酔科

I. 対象

初期臨床研修 2 年目 麻酔科研修プログラム 1 を終了した場合、さらに進んだ麻酔管理を経験し、緊急・集中治療の場での呼吸・循環管理を行えるようにする。

II. 一般目標(GIO)

1. 合併症を持つ患者の病態を把握し、それに対する麻酔管理を計画できる。
2. 手術術式や病態等を考慮の上、呼吸管理法を選択できる。
3. 病態を理解した上での循環管理ができる。
4. 各種麻酔法を経験し、周術期を見通した麻酔管理ができる。

III. 行動目標(SBO)

1. 吸入麻酔、静脈麻酔の特性を理解し、病態に応じて選択できる。
2. 気道確保困難症例の対応を理解する。
3. 指導医のもと硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔（脊椎麻酔）を実施できる。
4. 手術術式や病態等を考慮の上、呼吸管理法を選択できる。
5. 侵襲的循環モニターを設置し、その値により循環動態を把握し、必要な対処法を導ける。
6. 術後疼痛管理を計画できる

IV. 到達目標

1. 吸入麻酔の特性を理解し、全身麻酔を実施できる。
2. 静脈麻酔による全身麻酔の特性を理解し、これによって全身麻酔を行える。
3. 術前合併症により、起こりうる合併症の理解と対処法を理解する。
4. 気道確保困難の評価ができ、困難気道管理のアルゴリズムを理解している
5. エアウェイスコープ、トラキライト、気管支ファイバースコープなど喉頭鏡以外の気管挿管用器具の使用法を理解する。
6. 脊髄くも膜下麻酔（脊椎麻酔）に必要な解剖を理解している。
7. 指導医のもと脊髄くも膜下穿刺を行い、薬剤を投与できる。
8. 硬膜外穿刺の方法を理解し、指導医のもと硬膜外カテーテルを挿入でき、薬剤を投与できる。
9. 呼吸モニターの波形や数値により病態を把握できる。
10. 従圧式、従量式人工呼吸の利点・欠点が理解でき、設定ができる。
11. A ライン（観血的動脈圧測定ライン）が指導医のもと確保できる。
12. CVP ライン（中心静脈圧ライン）が確保できる。

13. 経食道心エコーを実施できる
14. 心血管作動薬のそれぞれの特性を理解し、病態に応じて使用できる。
15. 持続硬膜外鎮痛法を理解し、計画できる。
16. 鎮痛薬の持続静脈内投与法を理解する。

V. 経験すべき基本的手技(経験優先順位順)・目標経験数 (2ヶ月間)

気道確保 40 例

用手的人工呼吸 40 例

気管挿管 40 例

静脈路確保 20 例

胃管挿入 40 例

観血的動脈圧測定ライン 5 例

硬膜外カテーテル挿入 5 例